

(2) 芝生管理で注意すべき場所

次のような芝生の生育が難しい場所では、芝生の生育状況をよく観察しながら、状況に合わせたきめ細かな工夫が必要になります。

- 日当たりが悪いところ

芝生の生育には最低でも生育期（5～9月）に1日5時間以上の日照が必要です。建物の影など日当たりが悪いところは、芝生の伸びが悪くなるので、傷みからなかなか回復しません。そのため、なるべく傷まないよう早め早めに休ませることが大切です。



日陰による生育不良

- 凸凹があるところ

機械による作業が難しい築山などの芝刈りは、芝生用ハサミを使った手作業で行います。また、水切れが早く乾燥害が出易く、散水がかかりにくい部分も出やすいので、気を付けましょう。



築山等の芝刈りは手作業

- 水が溜まりやすい

降雨後1日経っても水が引かないような水はけの悪いところでは、芝生の生育が悪くなります。芝の上から少しずつ砂や土をまいて（目土作業）、水がたまりにくくなるようにします。改善が期待できない場合は、専門家と相談し暗渠排水工事などを検討します。



水溜りにより裸地化した芝生



目土作業

- 移動動線

建物の玄関・昇降口や校庭・園庭などへの出入り口の付近では、利用が集中し、すぐに裸地になってしまいます。芝生が傷む前に移動動線を見直し、出入りの分散を図るなどの工夫が求められます。



移動動線上で裸地化した芝生

- 遊具の周り

遊具の周辺 1m以内の芝生は、利用が集中し、すぐに裸地になってしまいます。定期的な利用制限や部分的な補修を行うことが望まれます。

また、芝生を保護するゴムマット等の設置も有効です。



遊具周りで裸地化した芝生

- 樹木の周り

樹木の枝下の芝生は雨だれや日陰のため生育が悪くなります。そのため最低2年に1回程度、樹木の枝おろしや剪定を行い芝生に日光が当たるように努めます。



樹木の下で生育不良となった芝生

(3) 芝生管理作業

a) 芝刈り

芝刈りは芝生管理において、最も基本的で大切な作業です。

葉を刈り揃えることで、美観を整えると同時に、多くの葉に均等に日光を当て、芝生に光合成を行わせます。また、芝生に使用される芝草は、葉が切られることで成長ホルモンを分泌する性質があり、芝刈りを数多く行うことで新しい芽が出て芝生の密度が高くなります。

芝刈りのポイント

- 2/3 ルール [P. 13]

1回で刈れるのは草丈の1/3までで、2/3は残します。それより低い刈り高だと葉の基部にある生長点を刈り取ってしまう可能性があります。生長点を刈り取ってしまうと、一時的に成長が止まってしまう。



葉が残るように刈ります

- 頻度が重要

芝刈りでは何よりも頻度が重要です。雨天等で予定通り芝刈りができない場合も、できるだけ間隔が空かないよう計画を立てることが重要です。

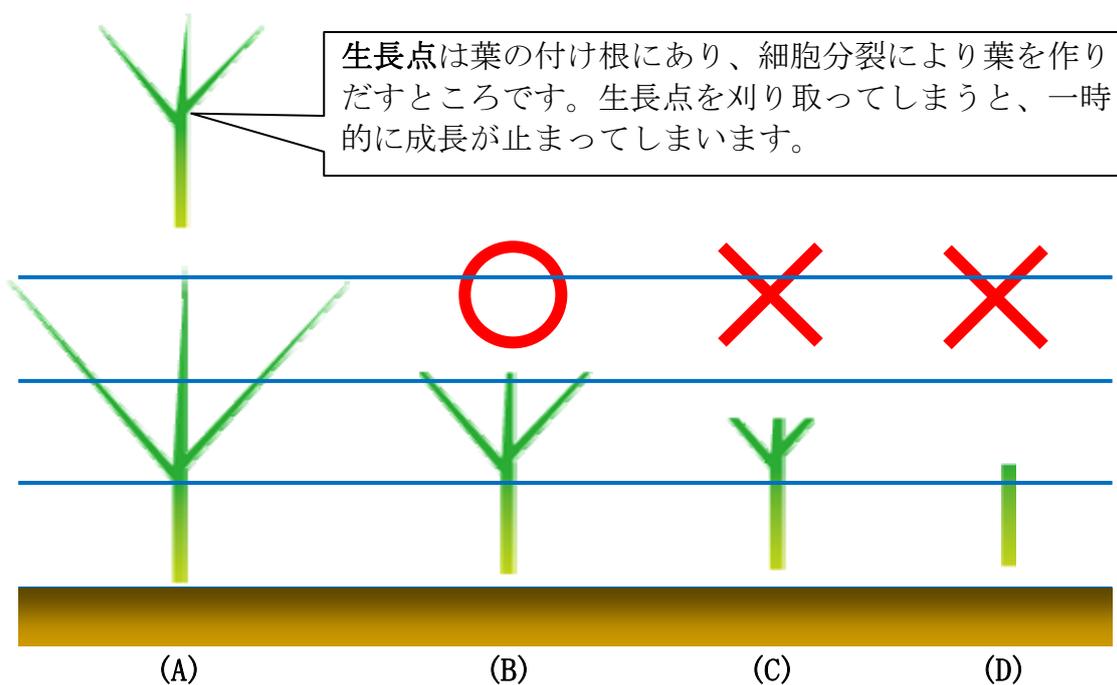
- 芝刈りの目安

芝刈りの月当たりの回数と間隔は、それぞれの季節の管理の目安を参考に行います。

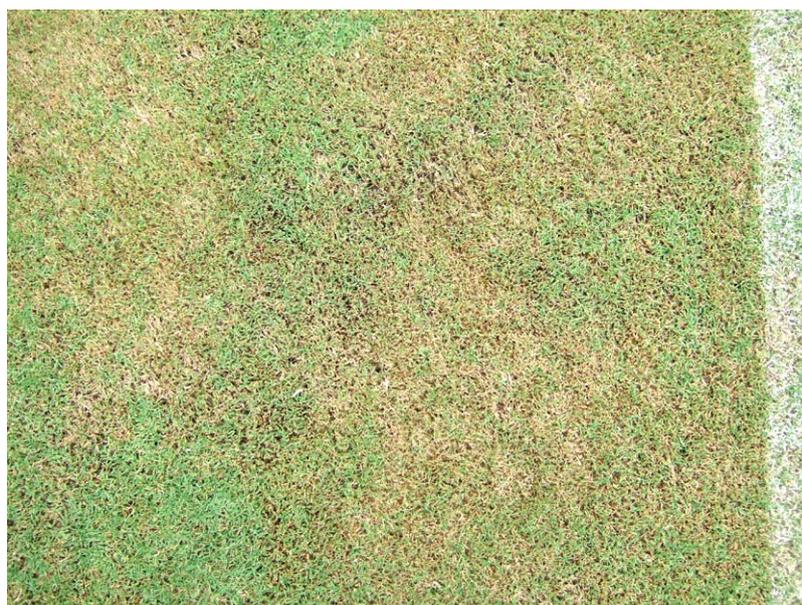
刈り高は下表の通り、4月から9月前半までの芝生が旺盛に伸びる期間は低（25mm未満）、伸びが衰える9月後半から10月下旬にかけては高（25mm以上35mm未満）とします。

| 段階 | 刈り高 | 時期 |
|----|---------------|---------------|
| 低 | 25mm未満 | 4月から9月前半まで |
| 高 | 25mm以上～35mm未満 | 9月後半から10月下旬まで |

◆ 2/3 ルール



(A)のように伸びた芝生を、(B)のように草丈の 1/3 を刈り、2/3 は残します。
 (C)のように刈ってしまうと、生長点は残りますが、葉がほとんどなくなってしまい光合成が行えなくなるため、伸びが遅くなってしまいます。(D)のように刈ってしまうと、生長点がなくなってしまったため、一時的に成長が止まってしまいます。



刈りすぎです！ 葉がすべて刈られている軸刈り

◆ 芝刈り機の洗淨・整備

芝刈り機の刃が良く研げていないと、芝生に思わぬ傷害を与えることとなります。芝刈り機の状態には、常に気を配ることが大切です。

芝刈り作業の後には、すぐに芝刈り機の刃を水洗いし、併せて刃の調整や研磨を行います。エンジン式の場合は、オイルやエアフィルターの点検を行い、2～3 か月毎に交換します。

日常の手入れをしっかりと行えば通常5年程度は使用できます。

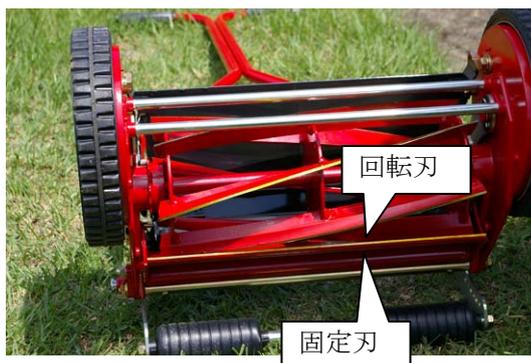


使用後すぐに刃を洗淨

◆ 芝刈り機の刃の種類

リール刃

- 固定刃と回転刃でハサミのように切る
- 精密に芝刈りができる
- 刃のかみ合わせの調整が必要
- 専用の機械で刃を研磨するため業者へ依頼する



ロータリー刃

- 回転刃が、横に回って、カマのように切り払う
- サンダーで研磨が可能



◆ 芝刈り機

芝刈り機は、芝生の面積に応じて適切な形式と大きさを選択します。芝刈り機はメンテナンスが必要なので、点検・修理等についても十分に相談でき信頼できる販売店から購入しましょう。

電動式芝刈り機は、10 m²程度の小さな面積の芝生用であり、校庭・園庭の芝生には向きません。

○手押し式

- 1台で50m²程度
- 刃のメンテナンスが可能なものを選ぶ
- リール刃が主体
- 安価なものは刃が弱いためすぐに切れ味が低下する傾向にある
- 価格7,000～50,000円



メーカー例

バロネス（共栄社）
キンボシ株式会社

○自走エンジン式

- 100m²以上、500m²程度までの芝生
- ロータリー刃が主体
- 価格100,000～200,000円



メーカー例

バロネス（共栄社）
キンボシ株式会社
本田技研株式会社
ジョンディア

○乗用エンジン式

- 500m²以上の芝生
- 運転免許は必要なし
- リール式は高価で維持整備費用も高額であるため、園庭・校庭芝生にはロータリー刃が向いている
- 価格700,000～1,500,000円



メーカー例

バロネス（共栄社）
本田技研株式会社
株式会社 IHI シバウラ
ジョンディア

b) 施肥

植物の生育に必要な栄養素を肥料として与える作業です。

施肥のポイント

- 生育期に切れ目なく散布する

芝生の生育する時期には、肥料の効果の切れ目がないように、**普通化成粒状肥料を月1回施すことを原則**にします。肥料の効果を長く持続させたい場合は、有機物を含んだ有機入り化成肥料も有効です。

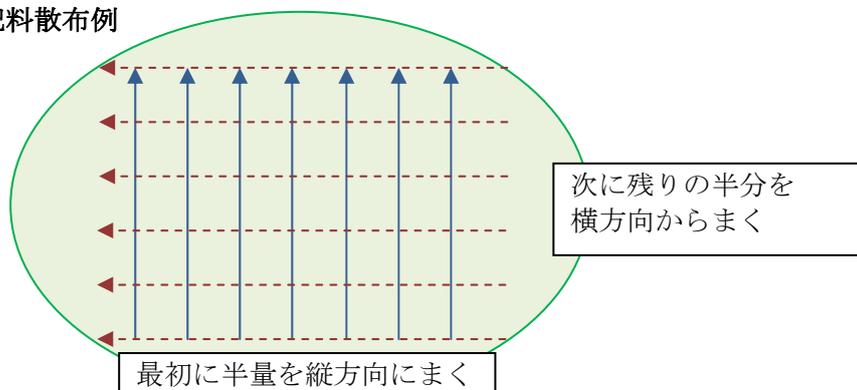
- 散布量

1回の施肥で1㎡当たりの窒素分量（肥料の重さではありません）が2～3gになるように散布します。多すぎると伸びがよくなり、芝刈りの回数が増えます。（P17の基準散布量を参考にしてください。）

- ムラなく散布する

芝生全体の生育を揃えるため散粒機等を用いて均一に散布します。予めロープやコーン等で歩く動線に目印をつけ、それに沿って散布します。散粒機がない場合は手でまきます。その場合は、まず半量を一定の方向でまき、その後もう半量を別の方向でまき、ムラを防ぎます。

肥料散布例



- 肥料散布後の散水

散布した肥料が葉に付着したままだと、芝生が肥料焼けを起こし変色します。肥料を散布した後には散水を行い、葉に付着した肥料を洗い落とします。【散水：P.18】 散水後、水が乾いたら芝生を使用できます。

- 密度低下部等への部分施肥

芝生の密度が低い部分や裸地化した場所等には、通常の施肥量より多めに散布したり、回数を増やしたりすることで回復が早くなります。【補修：P.21】

- 芝刈りと施肥を同じ日に行う場合

芝刈りの後に施肥を行い、最後に散水し、**肥料を洗い落します**。

◆ 使用する肥料

肥料は粒状の化成肥料を月1回散布します。液体肥料は補助的に使用し、容器に書かれた方法通りに散布します。肥料は園芸店、ホームセンター、農協等で購入できます。

| 成分比(N:P:K) | 基準散布量 | 頻度 |
|------------|--------------------|-----|
| 8:8:8 | 40g/m ² | 月1回 |
| 10:10:10 | 30g/m ² | |
| 14:14:14 | 20g/m ² | |

◆ 肥料をこぼした時

芝生の上で肥料をこぼした時は、手やスコップ等で拾ったり、竹ぼうき等で散らした後、バケツの水等でこぼれた肥料分を洗い流してください。

◆ 施肥用の機器

化成肥料は散粒機や手押し式散布機、液体肥料は噴霧器を使用して散布します。

○散粒機（左）と噴霧器（右）

- 1台で100m²程度
- 価格8,000～20,000円



メーカー例
シバタ、みのる、アグリップ

○手押し式散布機

- 100m²以上の芝生
- 価格70,000～150,000円



メーカー例
バロネス（共栄社）、スコッツ

◆ 肥料散布機・散粒機の洗浄

化成肥料は塩分を含むため、機器を使用後に放置すると固まり、動作不良や金属部分の腐食の原因となります。施肥作業後には十分に水洗いし、よく乾燥させてから収納します。